

神戸の都心の将来ビジョン及び三宮周辺地区再整備基本構想の策定

神戸市 住宅都市局 計画部 計画課
将来ビジョン推進担当係長 秋田大介

1. はじめに

今、日本の大きな都市は、それぞれが未来に向かって様々な方向性を模索している。国際競争や都市間競争が激しくなる中、都市の成長力をどう考えていくのか、都心をどうするのか非常に大きな課題になっている。

一方で神戸は、20年前の阪神・淡路大震災で市全体が被災し、三宮をはじめとする都心にも大きな被害を受けた。その後、市民と行政が協力して、復興を成し遂げてきたが、まちを元どおりの姿に戻していくということに力点を置いてきた結果、都心の姿は長く変わっていない状態となっている。

この神戸の都心とその中心地である三宮周辺地区(図 1)をどのようにしていくかを考えることが、神戸の未来にとって重要な課題になってきている。

この課題に対し、これまでのまちづくりの歩みを前提にしながらも新しい発想で、そして神戸らしい都心というのはどういう姿なのかを議論し、大きな方向性を示すものとして神戸の都心の未来の姿[将来ビジョン]と、三宮周辺地区の『再整備基本構想』を策定した。



図1: 都心と三宮周辺地区

2. 策定過程と「神戸らしさ」について

将来ビジョンと再整備基本構想を策定するにあたり、その過程において多くの方の意見や想いをいかに盛り込むかを意識した。そこで、骨格やたたき台を作る前に多くの想いを集めることを目的に、平成 25 年末から「神戸の都心の未来の姿」について提案募集を実施し、都心の良いところ、良くないところ、未来の姿への提案など、311 件の意見を頂いた。

そして、平成 26 年 8 月 24 日には、神戸の未来を考えるイベント「神戸の未来のまちづくり 300 人会議(写真1)」を開催。ワールドカフェの手法を用い、7 歳から 89 歳までの多様な参加者が神戸の魅力や未来について自由に語りあい、「神戸の未来にとって最も大切にしたいもの」について議論し、大いに盛り上がった。同時に、WEB で意見募集を実施し、これからの神戸の都心を考える上で最も大切にすべき「神戸らしさ、神戸の強み」について、190 件の意見を頂いた。

10 月には「市長との対話フォーラム(写真2)」を開催し、都心で重要な要素である「回遊性」、「景



写真1: 神戸の未来のまちづくり 300 人会議



写真2: 市長との対話フォーラム

観」、「にぎわい」の3テーマについて、市民と市長で意見交換を行い、続いて11月には「都心の未来を考えるシンポジウム(写真3)」を開催し、景観、にぎわい、交通、生活居住、環境エネルギー、観光文化、産業、防災の8つのテーマに分かれて、より専門的・実践的な観点から有識者等を交えて、施策のアイデアなどについて意見交換を行った。

これらのイベントを開催しながら、将来ビジョンについて議論する神戸の都心の「未来の姿」検討委員会と、三宮の基本構想を議論する三宮構想会議を立ち上げ、それぞれ30名程度のメンバーで5~6回開催し、計画を固めていった。

また、市議会においても、「都市未来創造に関する特別委員会」が組織され、10回の委員会、12回の理事会、3回の実地調査が行われ、平成27年3月に神戸の未来都市創造に向けた提言書がまとめられた。

これらの議論を進めていく中で、戦略的に都心の再生を進めるために、「神戸らしさ」とは何かを模索してきた。

「神戸らしさ、神戸の強み」を表すキーワードとして「歩いて楽しめるまち」「山と海が近いコンパクトなまち」「進取の気性」「個性あるライフスタイル」など様々なものがあがってきたが、1つの言葉にまとめることは難しく、共通する部分の概念として、「多文化でクリエイティビティに溢れた環境」と、「独自の地形と穏やかな気候に囲まれ都市と自然が調和し人々が交流する心地良さや暮らしやすさ」が浮かび上がってきた。

3. 神戸の都心の未来の姿[将来ビジョン]の骨子

以上の取組から、神戸の都心がこれから目指すべき都市像のコンセプト(写真4)は「日々の刺激と物語が生まれる美しき港町・神戸 ~多文化・多世代交流 あなたが参加しているまち~」となった。

「刺激」とは、多文化と身近に触れ合え、明治の開港から培われた進取の気性とクリエイティビティに溢れる環境を表し、「物語」とは、海と山に囲まれ、都市機能と自然が調和するまちの中で、暮らす人と訪れる人が出会い、結びつきを持ちながら、新たな神戸の記憶が紡がれていくことを表している。

そして、将来像を表現する柱として①心地良いデザイン、②出会い、イノベーション、そして文化、③しなやかで強いインフラの3つを立てている。

「心地良いデザイン」とは、神戸独自の海と山が身近に感じられるコンパクトな都心とその中にモザイク状に広がる特色あるエリア、これらが特色を際立たせながら調和し、景観のつくりこみや情報の提供により誰もが心地良く過ごし、働き、活動できる都心を表現している。

例えばイメージ1のように、まちなかに「景観デザインコード」を設定し、まちなみを美しく調和したものに誘導していくなど、人を主役にした神戸らしい景観と、それを感じながら歩いて楽しむまちを実現していくことや、



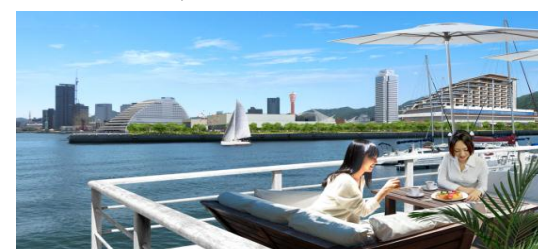
写真3:都心の未来を考えるシンポジウム



写真4:都心ビジョンのコンセプト



イメージ1:景観デザインコード



イメージ2:ウォーターフロントのにぎわい

イメージ 2 のように、港町としての神戸を楽しめる場をデザインし、心地良くまちを楽しんでもらえるウォーターフロントのにぎわいづくりを行っていく。

次に、「出会い、イノベーション、そして文化」とは、神戸の特色であり魅力である進取の気性を活かし、多様な文化と新しい気風を取り入れながら、個性豊かな人やまちが育ち、様々な人々が交流・融合することで技術革新や新産業の創出が起こることを表現している。

ビジネスの交流の場としてのスタートアップオフィス（イメージ 3）の開設や、住民同士の交流や都市と田園の交流の場であるファーマーズマーケット（イメージ 4）の開催、さらには港町の文化を感じる高質な空間として美しい書店（イメージ 5）の整備などに取り組んでいく。

3 つめの柱である「しなやかで強いインフラ」は阪神・淡路大震災を経験した神戸市として、復興の過程で培われてきた防災力や、環境負荷の小さいエネルギーシステム、そして誰もが動きやすく人にやさしい交通体系を備えることを表現している。

具体の取り組みとしては、緊急時に自動販売機や電話ボックスを利用して多言語で情報発信できるインフラ（イメージ 6）の整備や、ビル間で電気や熱を融通するシステムの導入、そして交通体系として LRT やパーソナルモビリティなどの新たな交通手段（イメージ 7）やゾーン内均一料金制度などの導入を検討していく。

4. 三宮周辺地区の『再整備基本構想』の骨子

三宮周辺地区の再整備のコンセプトは「美しき港町・神戸の玄関口“三宮”」であり、都心の将来ビジョンのコンセプト（イメージ 8）を受けた形で表現しており、海と山に囲まれた美しくコンパクトなまちの玄関口として、心地良さとクリエイティビティ溢れる駅周辺の空間を創出していく。

三宮周辺の目指すべき方向は、①神戸の象徴となる新しい駅前空間「えき〜まち空間（仮称）」の創出と、②「えき〜まち空間」を中心とした地区全体の魅力向上である。

また、今後の三宮周辺地区を再整備し活性化させていくにあたり、まちづくりの 5 つの方針を示した。

①歩くことが楽しく巡りたくなるまちへ、②誰にでもわかりやすい交通結節点へ、③いつ来てもときめく出会いと発見を、④人を惹きつけ心に残るまちへ、⑤地域がまちを成長させる、の 5 つであり、これらの方針を具



イメージ 3: スタートアップオフィス



イメージ 4: ファーマーズマーケット



イメージ 5: 美しい書店



イメージ 6: 多言語デジタルサイネージ



イメージ 7: 新たな交通手段



イメージ8:基本構想のコンセプト

現化していくことが「えき≈まち空間」の創出につながる。

「歩くことが楽しく巡りたくなるまち」となるためには、人が中心となった、歩く人を重視した交通体系と回遊性を高める歩行者ネットワークの構築が必要である。そのシンボリックな空間として、三宮の駅前の交差点を、「三宮クロススクエア(仮称)」(図2)として整備する。クロススクエアは自動車交通を排除し、人と公共交通を優先させた快適で安全な空間であり、人があらゆる方向に自由に往来できる空間によって三宮周辺に散在する6つの鉄道駅やバスの乗降場などをつなぐものである。

次に、「誰にでもわかりやすい交通結節点」を整備するためには、神戸で大きな課題となっているのは、散在して分かりにくい中長距離バスの乗降場と、駅前広場機能の脆弱さの克服である。現在ミント神戸の下に整備されている三宮バスターミナルと一体運用が出来るように、隣接するエリアに、中長距離バスの乗降場を集約して新たなバスターミナル(イメージ9)の整備を予定しており、また、市内を巡る路線バスは三宮クロススクエアの路上で集約していく予定である。

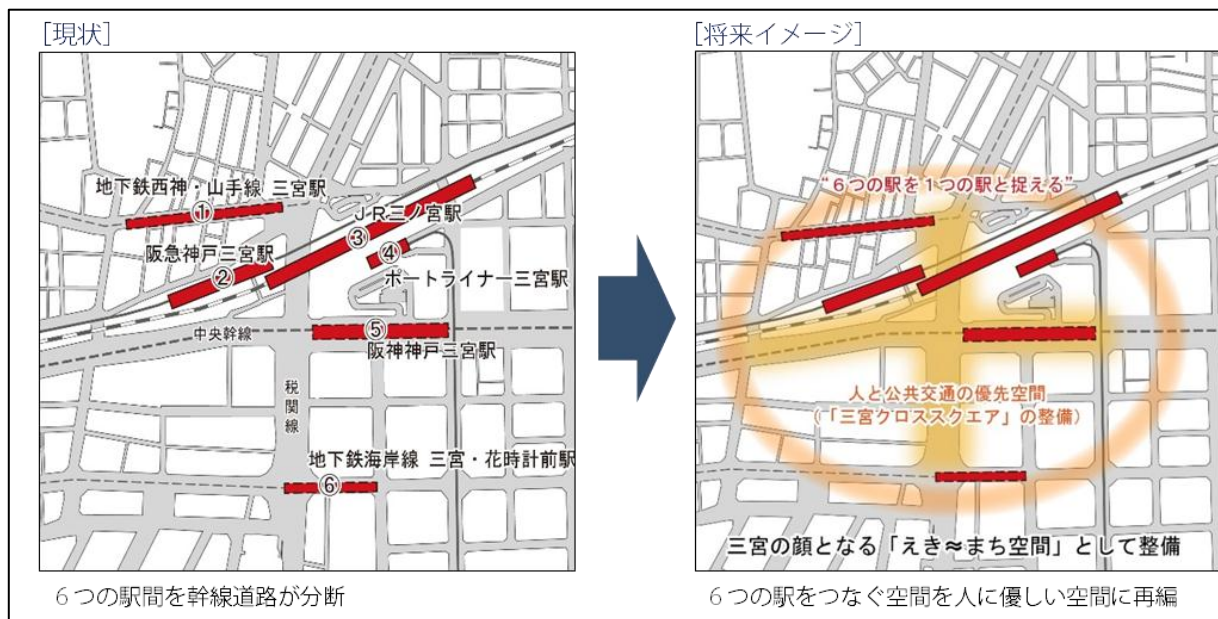


図2:三宮クロススクエア(仮称)

「いつ来てもときめく出会いと発見」が提供できる玄関口であるためには、働く魅力や訪れる魅力を生み出す都市機能を備える必要がある。

業務機能の充実としてビジネスチャンスのある場所や人材が豊富な場所であることに着目し、「スタートアップオフィス(イメージ3)」の開設や、大学集積都市としての強みを活かした大学との連携交流拠点の整備などを行っていく。また、訪れる魅力を充実させるために、神戸版 BID (Business Improvement District) の導入によるにぎわいの創出や、情報発信のためのインフォメーションセンター(イメージ10)



イメージ9:新たなバスターミナル

の整備に取り組んでいく。

そして、「人を惹きつけ心に残るまち」であるためには玄関口としての景観と、玄関口から見える景観を重視している。訪れた人の心に残り、市民が誇りに思える景観を創出するため、駅前において、既存の景観計画区域の再編や、屋外広告物対策など積極的に景観デザインを誘導していく。同時に三宮の立地特性を活かした緑の豊かさや水際への開放感を体感できる眺望景観の確保とその視点場の整備に取り組む。

最後に、「地域がまちを成長させる」ことを目指し、地元協議会と連携したエリアマネジメントによる特色あるまちづくりを実践していくために、既に始まっている東遊園地で行われた「神戸ホワイトディナー(写真 5)」や「アーバンピクニック(写真 6)」など、公共の空間を市民が活用する取り組みを進めていく。

また、環境負荷の少ないまち、防災力の強いまちのリーディングエリアとして、地域での低炭素やエリア防災への取り組みを促進していく。



イメージ 10: インフォメーションセンター



写真 5: 神戸ホワイトディナー



写真 6: アーバンピクニック

5. 「えきまち空間」と「三宮クロススクエア」について

都心の将来ビジョンと三宮周辺地区の再整備基本構想の骨子を説明したが、これらの計画で最重要項目として推し進めなければならないのが、「えきまち空間」と「三宮クロススクエア」(図 3)の整備である。

6 つある鉄道駅が散在し、乗り換えがわかりにくいと言われている三宮駅前において、6 つの駅それぞれに駅前広場を設けたりせず、大きな1つの広場を共有し、あたかも 1 つの大きな駅のように利用できるようにする。それが「えきまち空間」である。

そして、「えきまち空間」の骨格を成す、南北幹線のフラワーロードと東西幹線の中央幹線からなる三宮駅前交差点を、人中心の空間のシンボル「三宮クロススクエア」として、現在最大 10 車線ある車道を減少させ、人の空間に変えていく計画である。地上部分を歩行者が自由に往来し、散在する鉄道駅にも楽にアクセスでき、また、にぎわいの中で気軽に滞在できる場所に創りこんでいく。

この空間を中心に、神戸らしい景観とにぎわいのある玄関口を創出していく。



図 3: 「えきまち空間」と「三宮クロススクエア」

6. 都心の交通体系の再構築について

三宮周辺地区を含む都心の再整備の大きな方針である人を中心にしたまちづくりにおいて、「回遊性」や「利便性」の確保は重要な課題であり、そのためには、現在の都心部の交通体系を見直す必要がある。

三宮駅前での「えき〜まち空間」と「三宮クロススクエア」の整備や、三宮新バスターミナルの整備に歩調を合わせて、現在のバス網の再編や LRT、BRT などの中量輸送システム、さらにはカーシェアリングやコミュニティサイクル、そしてパーソナルモビリティも含め、都心の交通体系の在り方(イメージ 7)を考える。

料金体系についても、交通手段ごとや、事業者ごとに支払う料金システムから、ゾーン内であれば均一の料金で何度も乗り降り可能な料金システム(イメージ 11)に変更していくことを検討する。

さらに、「道路空間のリデザイン」(イメージ 12)を行うことで、車道と歩道の空間配分を変更するなどして、安全で歩きやすく、にぎわいのある公共空間とし、歩いて楽しいルート整備を行う。



イメージ 11:ゾーン内均一料金制度



イメージ 12:道路空間のリデザイン

7. おわりに

今回は、神戸の都心及び三宮周辺地区において、市民、事業者、行政が将来像を共有し、その実現に向けて協働で取り組むための向うべき方向性を示すために将来ビジョンと再整備基本構想を策定した。

今後は、これから、目に見える形で加速度的に、魅力的な場所になっていく神戸と、これまで培ってきた神戸らしさをプロモーションしながら、行政と民間が協働して取り組みを鋭意進めていく。

また、将来ビジョンと再整備基本構想については、神戸にとって重要な要素を盛り込み、ますます魅力的な都市となる旗印となるよう、現在策定したものを状況にあわせて順次改定していきながらさらなる磨きをかけていく。

最後に、将来ビジョンと再整備基本構想の策定にご指導いただいた、兵庫県立大学政策学研究所の加藤恵正教授、神戸大学大学院の小谷通泰教授をはじめ、神戸の都心の「未来の姿」検討委員会並びに三宮構想会議の委員の皆様、そして、各種の神戸の都心の未来を考える会議にご参加頂いたり、ご意見を頂いたりのご協力くださった多くの方々に深く感謝の意を表し、これからの神戸の飛躍を誓う。